

NO! リニア

No. 4

2009年10月14日

JR東海労働組合

リニア反対プロジェクト

リニアにシフトする乗客はどれだけいる？ 会社の需要予測は大甘！

会社は、7月21日需要予測を発表しました。東海道新幹線や他の交通機関からのシフトを期待しています。会社が発表した需要予測を検討しましょう。

輸送需要量（2025年、Cルート）	167億人*
東海道新幹線からの転移	122億人*（人ベースで4,200万人）
航空機からの転移	5億人*
その他の交通機関からの転移	15億人*
リニア開通による新規需要	25億人*

検証① 東海道新幹線からの転移はどうか!?

数値は、2008年度の実績（乗客数1億4,300万人）をもとに算出されています。すでに東海道新幹線の輸送量は、ビジネス客を中心に減少段階に入り、2025年は未知の数値です。算出はピークではなく、あくまでも平均的な数値（1億3,500万人）で出すべきでしょう。東京～名古屋（総数の約30%）の乗客全てがリニアにシフトするとは限りません。料金などを考慮するからです。東京～名古屋で65%がシフトした場合、年間2,600万人の算出となります。また、東京～新大阪を考慮すれば、45分短縮のためにわざわざ面倒な乗換をしてまでもリニアに乗るかどうかが疑問です。会社は、一時「のぞみ」廃止を打ち出しましたが、リニアに強制的に乗せるという思惑に対する批判があり撤回しました。これは「のぞみ」思考の乗客が多い証左です。

検証② 航空機からの転移はどうか!?

羽田～名古屋の航空便が無いのに、この数値を出すこと自体がいい加減です。

検証③ その他の交通機関からの転移はどうか!?

高速バスの利用者は、格安料金を理由に利用しています。高速バスからのシフトは期待できません。さらに、高速道路の一律1,000円（将来的には無料化）を考慮すれば、高い料金を支払ってまでもリニアに乗るかどうかは疑問です。

検証④ リニア開業による新規需要はどうか!?

開業後まもなくは物珍しさで乗るでしょうが、何十年も続くとは限りません。

結論！

会社の需要予測は大甘で、採算が取れないと考えるべきです。